

わかりやすい「環境と科学技術」講演会に参加して

榎本真嗣*

上記講演会が、平成13年4月26日(木)に技術士センタービル8F大会議室で開催された。講師は、久保田正明氏(環境地質科学研究所長・元経済産業省産業技術総合研究所物質工学工業技術研究所長)と、TVでもご活躍の北野大氏(淑徳大学国際コミュニケーション学部教授)であった。参加申し込みの締め切りは150人であったが、制限枠一杯の参加者があったと思われ、立って聴講されている方も大勢いた。

講演内容は、久保田先生が「グリーンサステイナブルケミストリー(グリーンケミストリー)」について、北野先生が「リスクコミュニケーション」についてであった。

「グリーンサステイナブルケミストリー」とは、「物質を設計・合成するときになるべく有害物質を使わず、生産の過程からグリーン化を目指すこと」という意味だそう。現在確認もしくは認証されている天然および化学物質は、1100~2000万種もあるという。このうち全く無害の物質は、わずか2500種程度だそう。身の回りのほとんどが有害物質というのではなく、その摂取量が問題となろう。水道水の水質基準などを思い浮かべればよい。これは北野先生も「コップに詰めた食塩を食べると死に至る。ただし4時間以内に食べてほしいですね」と、ジョーク混じりの語りがあった。地球誕生から現在を1年に置き換えると、人類出現は4時間前、PCB等の出現はわずかに0.5秒前となるらしい。人類が合成・開発した化学物質の中には、PCBのように内分泌を攪乱する物質(環境ホルモン)や、ダイオキシン類のように濃度が億~兆分の1mg/lでも毒性のある物質が、近年確認されてきた。我々人類は便利さと引き替えに、短期間で世界を汚染させてしまった。できるだけ無害な化学物質を開発することは私にはできないが、身近でできる環境保護として、ゴミの分別やリサイクルなど、改めて考えた次第である。

次に北野先生の「リスクコミュニケーション」について。この意味は、「関心のある集団における人の健康・または環境へのリスクに関する意図的な情報の交換」だそう。ここで大事なのが「コミュニケーション=情報の交換」だ。我々は「化学物質=危険」というイメージを抱きがちだが、必要な、便利な物質も多々ある。その危険性と必要性をよく把握し、また物質を開発する者は周りに十分に説明し理解を受けることが大事である、ということだ。ところでコミュニケーションには「10の大罪」があり、その第一番目が「相手に準備不足の印象を与えること」であるそう。これは化学物質の話だけに限らないであろう。我々も仕事の中で、説明を必要とする場面は多々ある。いくら調査が万全であっても、説明・文章が下手くそで相手に理解されなければ、準備不足の印象を与えてしまう。また、服装・身なりも然りで、相手が「この人で大丈夫なのか?」と感じれば、準備不足の印象を与えることになる。このようなことがないように、肝に命じた次第であった。

ところで北野先生の講演には、「TVの裏話」などは一切なかったことを付け加えておく。

*株式会社日さく